

日本の未来を 拓く若者がいる

●荒川祐一さんの勇氣

まだ夜が明けきらない二月の朝六時、新宿駅東口前広場の掃除をしてくれている若者たちの姿が目に入ります。

「その中の一人の背中には、「お手伝いをしてくれる人募集中」と書かれたダンボールの看板が括りつけられています。その呼びかけに応じて集まってきた

た人たちは、皆さんが大学生ですので、その日によって人数は異なります。しかし、常連とも言える人たちによって、東口一帯がきれいに掃き清められています。

今冬は暖かかったとはいえ、夜明け前の街頭は冷え込んで、濡れたゴミを分別する手先は凍えてしまいます。

そうした中で、黙々と掃除に取り組む若い人たちの姿には頭が下がります。この人たちはとても格好がいいと思います。そして身なりだけを飾った上流気取りの人たちより素敵な姿であるとも思います。また、このような人たちが現れてきたことに、日本の将来への光明を見出すことができます。

看板を背負った大学生の名は荒川祐二さん。昨年十一月、ただ一人で掃除を始めた荒川さんの勇氣に敬服します。ダンボールで作った看板を背にして公衆の面前に立つ勇氣を、皆さんはお持ちでしょうか。

外の掃除といえば、自分の住まいや

職場の周囲を掃くだけでも人の目が気になり、ちよつと躊躇するものです。

ましてや、まったく関わりのない場所で、好奇の目に晒される中での行いは、よほど高い志と眞の勇氣を備えた人でなければできないことです。

掃除に限らず何事でも、大勢の中の一人としての行いは、比較的氣が楽なものですが。衆を頼むという心理が働くと、周囲の目が自分だけに集中しないという氣安さもあります。

それに対して、普段人がやらないことを一人で実行すると、衆目を一身に浴びることになってしまいます。体験者なら誰でも知っている通り、これは耐え難いほどに辛いことであり、とても緊張を強いられることでもあります。その場に立ってみなくても、想像するだけで大変なことであると分かっているだけでありましょう。

●批判する前に実践を

その大変なことに取り組んだ、荒川

さんの志と善行を踏みにじるように、遠くから冷笑したり嘲笑する人が少なくなありません。

時には、せつかく集めたゴミを蹴散らすような輩さえ現れます。自分が善いことをする勇氣を持たず、実践できない人間は、善行を為す人の妨害をすることに情熱を燃やすしか能がないのでありましょう。

せつかくの善意を打ち砕こうとする悪意に対して、いつも笑顔を絶やさずやり続けることは並大抵のことではありません。

荒川さんの不屈の精神に賛同して協力を申し出てくれた仲間が現れたことは、荒川さんにとってはもちろんのこと、社会にとっても一大朗報となりました。

「いま時の若者は」と決め付けている人は、新宿駅東口前広場における活動を見てほしいと思います。見るだけでなく、参加してくだされば、自分のためにもなりましょう。